

読賣新聞

発行所
読賣新聞東京本社
第46992号

〒100-8055
東京都千代田区大手町1-7-1
電話 (03) 3242-1111 (代)
http://www.yomiuri.co.jp/

2007年(平成19年)1月5日 金曜日

「子どもがつくる森」作戦

拾ったドンクリ育てて植樹

保育園や幼稚園の園児を対象にした「子ども森づくり運動」が始まっている。森で拾ったドンクリをプランターに植え、3年目に森に植樹する取り組みだ。複数の民間団体が協力して進めており、今年度は全国50か所で実施することを目標としている。

「自然暮らしの会」(東京)や社団法人国土緑化推進機構(同)などが運営事務局(http://www.kodomonomori.net)を組織し、今年度から取り組んでいる。具体的には、保育園や幼稚園の子どもたちが地域の森に出かけ、ドンクリなどの種を拾う。種をプランターに植えて保育園や幼稚園で育てる。

3年ほどして苗が育ったら、地域の森などに植え替えるという活動だ。森に出かける時は、森林に関する幅広い知識を備えた「森林インストラクター」が同行する。ドンクリを拾う場所や木を植える場所、インストラクターなどは運営事務局がコーディネートする。また事前に保護者向けの説明会も行う。森づくり運動の運営事務局で、「自然暮らしの会」事務局長の清水英二さんは「生きる力を養うためにも、幼児の時代に理屈抜きで自然とふれ合う体験をしてほしい」と話す。

今年度は試験的に千葉県や愛知県など5か所で実施した。千葉県船橋市の二和ひつじ幼稚園はその一つ。園児約140人が昨年10月、ドンクリを拾いに地元の一船橋県民の森を訪れた。子どもたちは葉っぱや木の枝で遊びながらドンクリを拾い、プランターにその場で植えた。現在は園に置き、芽が出るのを楽しみに待っている。

「森の中で遊ぶのが心地よ丸太をくりぬいて作ったプランターに、ドンクリや木の苗を植える子どもたち(船橋市で)

かったのか、子どもたちは自然と歌が生まれ口ずさんでいました。1回きりのイベントではなく、木を育てるといって継続性が魅力」と園長の高橋裕介さんは言う。

この運動では東京のアートディレクター、水谷孝次さんらが活動の推進に協力している。拾ったドンクリを持ち帰るための箱やバッグ、子ども用の記録用ノートなどをセッ

トにしたキットを作製、書店

などで1セット税別1900円で販売し、売り上げを森づくりの活動費用に充てている。水谷さんは人々の笑顔を撮影する活動「メリー(幸せ)プロジェクト」を行っており、森づくりに参加した子どもたちの笑顔も撮影している。「自然の営みに触れることで子どもたちの心が元気になるれば」と水谷さんは話している。

暮らし 家庭